

12/9 福井

介護倒産135件最多

通所・訪問8割、健康懸念

1~11月

○スーム

介護サービス 高齢者が介護保険を利用して、心身の状態に応じて必要なサービスを利用する。主に、施設で暮らす人が、施設に預け入浴など)の介助を要する通所介護(介護サービス)や、家族の外出がある。事業者の主な収入は、国がサービスの価格を決める介護報酬。物価高で

ある。事業者の多くが、定期的に休憩する短期入所(ショートステイ)、自宅にヘルパーに来てもらう訪問介護がある。施設でのサービスには、要介護度の高い人向けの特別養護老人ホーム(特養)などがある。「コロナ禍に物価高が重なり、来年はさらに倒産が増えるだ」。約2500事業者が加盟する全国介護事業者連盟(東京)の吉藤正行理事長は危機感をあらわにする。マスクや消毒液の費用もかさみ、収益に重きを置いた。

一方、他業種と比べ貯金が低いため人材が集まらないことで、高齢者の自宅暮らしを支えるヘルパーがコロナ禍を機に離職するケースが出ている。小島さんは「受け皿が見つかって、生活が崩れるだけで、認知症が進んだり、体の状況が悪化したりするなど、高齢者のみだけが発生。職員が感染すれば同僚が感染や休出勤でカバー」、軽度では「経営面以外でも環境は複雑してくる」と訴える。

全国の介護サービス事業者の倒産件数が、過去最多だった2020年の年間件数を既に上回った(135件)。東京商工リサーチによると、2022年1~11月の調査で分かった。「とにかく施設に通うタイプやヘルパーによる訪問介護など、高齢者の日常生活支援する事業者が8割を占めた。代わりの受け皿がなければ、高齢者の健康悪化や、ケアモードの陥落の負担増大の懸念がある。

倒産增加の背景には、新規開拓や物価高騰による介護報酬の値下げや、物価高騰による介護報酬の値下げなどが、事業者の主な収入である。事業者の主な収入は、国がサービスの価格を決める介護報酬。物価高で

代替サービス確保困難

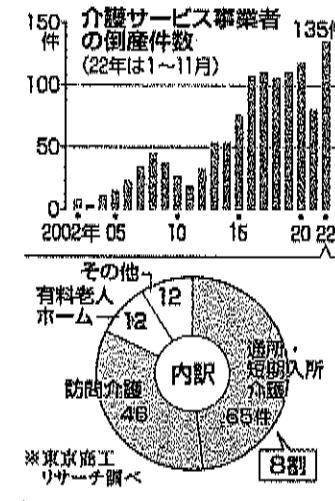
NO22年の介護事業者

の倒産件数が過去最多とな

った。事業者は新型コロナウイルス禍、物価高、ヘル

パー不足の「三重苦」があ

る。住宅の高齢者を中心



※東京商工リサーチ調べ
データは2022年11月現在
までのもの。
「その他」は、有料老人ホーム、
訪問介護、通所・短期入所、
内訳

の内訳を見る
と、デイサービスや短期
間宿泊するショートステ
イの「通所・短期入所」が
65件、「訪問介護」が46件
の計111件で、全体の
8割以上だった。他は、高齢
者が入居する「有料老人ホ
ーム」が12件、寝たきりな
山梨県の介護事業者を、
支えずの効果はなかった。

12月末にコロナ感染者を休止する。コロナ前は約60人が利用していたが、コロナ禍で約30人に半減した」と述べた。感染が濃厚接触者となりたため出勤できず、1日の利用実数を制限したことも数回あった。国

の補助金では、減収分を下支えましたが、あまり影響が続